

風土記の丘の花だより⁹⁶

今、そしてこれから見られる植物(2021年7月24日)

暑くなりました。外から館内に戻ると、水分を摂ってしばらくポーっとしていないと、次の仕事にとりかかれないことがよくあります。これも熱中症のせいでしょうか。皆さんもお気をつけください。この季節、花だよりに載せる花を探すのも一苦労です。



でも何とか見つけたので紹介します。

修復古墳のソテツに雄花が咲いています。雌花はバレーボールのような形ですが、雄花は、写真の3倍ほどに伸びますから、まるで野球のバットみたいになります。ソテツは雌雄異株で、雄株と雌株があります。赤い実ができるのはもちろん雌株の方です。雌花も探してみてください。



ソテツと打って変わって小さなアオツツラフジの花です。木などに絡みつくる草です。花だけではわかりにくいので、右に全景の写真を載せました。普段、恐らく立ち止まって眺めることはないでしょう。本当に目立たない草です。秋から冬にかけては、濃い紫色の丸い実をたくさんつけるので、それならご覧になった方もいるのではないのでしょうか。



万葉植物園の水生植物のところでヘラオモダカの白い花が咲いています。上のアオツツラフジと同じくらい小さい花です。これは、ホームセンターなどでも水草として売られています。たしかに涼しげですね。オモダカは、食用のクワイのような植物で、葉は細長い菱形で、下が二股に分かれています。でもこれはへらみたいでシンプルな形です。



小早川家住宅の庭や、柳川家住宅の南の山裾でミョウガの花が見られます。素麺のつゆに薬味として入れたりするので、私たちに馴染みの深い植物です。つぼみは直接地面から出て、その先から薄黄色の大きな花びらが出ます。ちなみに、ミョウガはショウガの仲間ですが、園路沿いに咲いているヤブミョウガはツユクサの仲間です。葉や茎などの形が似ているので、名前も似ていますが、全く別の植物です。松下